
テスト勝負！

愛夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「テスト勝負！」

【Zコード】

Z1545Z

【作者名】

愛夢

【あらすじ】

同じクラスで席が隣の渡来 わたらい 夕菜と楳原るい。

いつもテスト勝負で勝つ夕菜は「負けたから好きな人教えて。」
るいに

言づ。すると、るいは教えたなら協力する・といつ条件でまりに好きな人を
教える…。

その後、だんだんるいのことが気になる夕菜。
でも、るいの好きな人は夕菜の心友！？

そして、夕菜の元カレ接近！？
夕菜のハチャめちゃな中2生活を
暖かく見てあげてください（笑）

絶対負けへん！

「おーい！今回のテストも分かつてただらうな。」

テストが始まる5分前。るいが話しかけてくる。

「あんな、もうすぐテスト始まるんやで！それと今回もテスト勝負するん？」

「当たり前やろ。今回は渡来が負けるばんや！」

「勝手にうちが負けって決めやんといってくれますか？」

うちは、 渡来 タ菜。 性別 女
横でつむさいのが、 横原 るい。 性別 男

ただいまテスト開始5分前。

うちどるいは別に幼馴染でもないし
同じ小学校だつたけど、そんなに仲は良くなかった…。
中学に入つて同じクラスで席が隣だから
よくしゃべるだけ。

「はーい。テストはじめー！」
あー！テスト始まつた

ほんで、さつきのことを喋つてた
『テスト勝負』やけど、

うちらは、毎回テスト勝負つてゆうて
テストの平均がどちらが高いとか、
五教科だけで勝負するときもあるし、

全部で勝負するともある。

でも、今のところ全部つかが勝ってるねん

「はい！そこまで。鉛筆おいて後ろから集めて来い。」
うの名前は『わ』から始まるから出席番号は一番後の。
いろいろ集めるのも慣れた。

「よー。今回のテストは俺が勝ったかも
めつちや解けたもん。」

「はいはい。そうですか…。でもつかも負けてないでー。」

るこは、すぐにお子ちやまだから誰からも
かわいがられる…愛されキャラって感じ。

-数日後-

「はい。テストを順番に返していくわ。」

バチ！

ること田が合ひ。つづ
るこはその後、私を鼻で笑つた。
むかつくー！

「はい。渡来は結構がんばったな。」

テストを恐る恐る見ると……

あー国語のテストは82点。
がんばって良かった

自分の席に戻るといが鼻歌を歌いながら待つてた。
(今回も「うちの勝ちやな。)

「どうやった?俺、結構良かつたで!」
「それはどうかな?「うちのは82点やで。」

るいの表情が曇る…。

と思つたらこきなり笑い出して

「俺の勝ちや!83点」

「うわー。1点差か…まあ、同点みたいなもんか。」

「お前…1点でも俺の勝ちや。そつか、お前俺に負けてくやしいん
やな!」

「はいはい、そうですーでも他のテストはどうかな?」

—そして数日後—

「うひの平均点は…84点でーす 」

「はあー。俺、76点」

結局うちが勝つた!

この敗因は英語。1)二つの英語の点数…42点(笑)

るいは英語が1学期から点数悪かつてん。（ただ今、2学期の中間

テスト）

それで、いつもひかが勝つてたわけ

「ほんじや、るいが負けたからひかに好きな人教えてや！」

「はあ？お前絶対誰かに言いつやう！」

「ううん。絶対言わんから……おねがーい。」

るいが少し考えて…

「絶対誰にも言わん？」

「うん。ひかが言つわけないやん！」

「そのかわり、俺が言つたら協力してくれる？」

「うんーするする。

早く言いつ。 絶対協力するからーー！」

「ほんじや、言つな……俺の好きな人は……。

絶対負けへん！（後書き）

「でも、一瞬のうちに

今回のテーマは...よく分かりません! (お~お~!)

まりの元カレ急接近！？

2話からまりのハチャめちゃ生活が幕をあける

「ついの気持ち……わからん。

「俺の好きな人は……峰原やねん。」

峰原 りん（通称 りんりん）はうちの心友で
超面白くてかわいいクラスの人気者。
うちの幼馴染的そんざいの子！

「なるほど……。りんりんやつたら納得いくわ……！」
「ぜ……絶対誰にも言うたらアカンで。
お前、峰原と仲いいから言いたくなかったん／＼

るいが顔を真っ赤にして喋ってる。
こいつも恋するんだなー。

「つで、お前はどうやねん？」
「うちは、もう好きな人作らんから……。」
「拓のことがあつたからかな？」

るいが、からかってくる……つづつ

… そう、うちは5月頃まで澤口 拓と付き合つてた。
卒業式に告白されて

その時うちも拓のことが好きやつたから
何のためらにもなく付き合い始めた…。

でも、中学でクラスも離れて拓に新しい好きな人ができた…とかゆうウワワサが流れたり、うち自身が拓のことが好きなのがどうかも分からなくなつたからうちから別れた…。

「お前、拓とラブラブやつたらしこやん（笑。）

「う…うぬわーーー」

でもこの頃少しすつ後悔してきてる…。

つてこの話は置いといへ

今はることりんりんの話をしなー！

「あんな、りんりんやつたら

今は好きな人おらんて言つてたから告白あるー。」

「う…俺も告白したいけど
もしフラれたら嫌やから。」

でた。るいの意氣地なし！

「でも、OKして貰えるかもしねへんし…諦めたら終わつやでー。」

「うん。

告白か……一回してみるわ。

その代わりお前も手伝って！お願い！」

「うふ、手伝いで！

がんばりや。」

その時、少し視線を感じた。
振り返つたら、拓があつた！

すじこじこいちを睨んでる。

なに怒つてんのかな？

その日学校が終わつて
うちが家に帰つたら一通のメールが
携帯に入つてた。

「ん？誰やろ？」

それは拓からのメール。

-本文
久しぶり
いきなりやけど…

FROM 拓
TO 夕菜

夕菜って今、ること付き合ひてる?
今日めっちゃ仲良く喋つてたから。

それと、もしこうたら
もう一回付き合わへん?

おれは他に好きな人おらんし

夕菜にフラれた時結構ショックやつたで……。

変なウワサが一時期流れたケド
あれは友達が作った嘘やで。

もし、それで誤解してるとやつたうごめんー。
返信は急がんからゆづくつ考えて……。

じゃあ、バイバイ

- END -

え…?

拓のウワサは嘘やつたん・・・?

でも、なんかもう一回やき合ひつて……。

「じつじよー。」

頭がぐずりやがりやある……!—!

- 次の日 -

「おはよー、夕菜ー」
「あーりんりん、おはよー。」

ちゅうと相談してもいい?」

「ん? いじよ。なになに?..?」

「あんな、昨日.....」

「.....」

「えつ? まづ?..

で、もう一回でも会いつこへ。」

「もしやねん...。」

結局、2人で考えたけど、

りんりんは「自分でよーく考えて、
はつきり拓君に返事出しつけて言つてくれた。

そうやんな。」

うちと拓の問題やーりんりんに
頼つてたらアカンー!

「よーおせよ。」

「どしたん? げんきなくない?..?」

「キー!..

「お... おはよ。全然元気でー。」

つてゆうか

今後二年間の予想

ありえん！！！！

それに、るいほりんりんの「」とか好きやねんから。

その日の放課後

経月一
ノ

めん! サコはソシテー様には付き合われへん。

つて拓に言った。

うひつて最悪やんな。

拓は振るし。」

うち自身も自分の気持ちがわからんよ……。

「せこひせ」。

どうしたらいいん?
うちはるいが好きなん??

「ついの気持ち。」。わからん。（後書き）

いつも…感謝です。

なんか大変なことに
なってきましたね！！

ること少しずつ気になり始めた夕菜…。
でもるいはそのことには全く気づかない超一鈍感クン
夕菜の気持ちとの気持ちの
すれ違…。
3話もよろしくお願ひします…!!

ああになつて……いやんね。

うちはなこの「」とが好きなん?

自分でモバカザしてゐつて思つてゐ……。
だつて、るいはりんりんが好きやもん。

それに、ぬいに一回ドキつてしただけ
そんな風に思つたらアカン……！

「渡来ー

わつと峰原とめつわや蝶つてんー。」

「はいはい……
良かつたやん。」

ヤバイ……。またぬこ】ドキドキしてゐ。

でも、絶対好きになつても叶わん恋やもん……。

キーンゴーンカーンゴーン

「はーい、早く席に着け！英語始めるぞ。」

はあー。

あのときにもひー回せき合つてたひ…
うちはなこの好きにならんですんだのかな？

拓を振つたこと…

るいを好きになつたこと…

後悔ばっかりがうちを締め付けぬ…。

「……であるからして、このことを現在進行形といつ。えーっと槇原分かるか?」

「え…えーと分かると思ひなさど…。」

るいが、うちの方を見てう〇〇サインを出しついで。

はあー。

「うわざりることに答えを教える。

やつぱまつうけじま

氣が命づ友達が一番なんだよな…。

「はい。今日まことに終わります。」

「おこー。わざありがとう。

俺マジで英語苦手やんかー、やから助かつたわー。」

「うふ。」

「うせそれだけ言つと女子トイレに逃げ込んだ…。

やつぱつぱつち……るいが好き。
でも絶対叶わない……。

泣き声。

りんりんじめんね。

るい。好きになつてじめんね。

でも好きなんだ……。

あせこなつて、あたね。(後書き)

いつも…愛撫です。

自分がるいのことを好きと確信する夕菜。
でも、叶わない恋とるいのことを諦めよつとするが
夕菜には出来なかつた…。

4話目ではるいの告白!-?.

次話もよろしくお願ひします

奇麗事（かにいじ）と後悔。

「渡来ー

俺な、今田中市原峰に告ひつと申つねとナビ…

「うほつ…」

え…？お願い。

りんりんと叩き合はせること。

「う…う…いいんやう？

がんばりやー」

どんなに苦口しても
がんばりやーなんてつのは奇麗事、申つけさせやな…。

苦口…か。

ほんまにこのことを諦めやんな
アカンのかな？

でも、絶対に諦められへん…。

うち、どうすればいいん？

「また相談するナビ…よしこな

るいが照れくわいに笑つてゐる。
それを、見るのがつい。

学校から帰ると
ベットにダイブする。

るこの照れくしゃむな顔：
本間にりんりんのことが好きやねんな。

「んな」と想えてたら今にも泣き出しつ。

ー次の日ー

「オッス！
なあなあ、今日の放課後
お出でありますか？」

「おはよー。
うーん放課後か…。
りんりんクラブで忙しいから
そんな暇ないかも。」

なんとか告白の延期を求めるよ、
言ひて訳を作る…。

はー
うち最悪や。

「もつかー

じゃあ、なんて告白したらいいやん?
お前、言葉とか考えて！おねがーい。」

「そ…そこは自分で考えて！
何でもうすに頼らんといて！－！」

二二九

また女子トイレに逃げ込む。

レヨウキチハシイリ

告白の手伝いなんか…
せりふ

卷之三

考
え
れ
る
わ
け
な
い
や
ん。

あ

今思えばつか、るこに思いつきりハつ当たりしてゐる。

うちは人生で何回後悔すればいいん?

るいに嫌われた：かな？

ため息をつきながら
自分の教室に戻る。

机に座ると

横からるいが

大丈夫？みたいな目でうちを見てくる…。

「夕菜 おはよー！」

「おーりんりん。おはよー。」

「あーりんりん。おはよー。
元気そくなつちを見て
るこもホッとしたような顔になる。

そして、りんりんが自分の席に着くと

「渡来。

わつきばいめん！

それと俺、今日峰原に告白するわ。
言葉もひきませんと自分で考へるー。」

え…？

うわー————！

告白するん…・・・

しかもきょりつ！？

パニッシュになつてゐる気持ちを抑えで

「わつか！がんばりや。」

ほりーまた奇麗事言つたやつた…。

本日2度目の後悔。

奇麗事（きれいごと）と後悔。（後書き）

さつせー・愛野 でーす。

るいがいきなり告白の決意！？

とまじう夕菜。

りんりんはこのことをどう受け止める？？

次話はハチャめちゃになっちゃうです！

でも、暖かい田で見守つて下をこ

なぜやねりてこいの？

2度目の後悔をした私は
どうしていいか分からなかつた…。

授業中もるこの告白のことが頭から離れなくて、
ボーッとしている時間が過ぎた…。

「…たら…」

頭からることりんりんの笑顔が離れない

「わ・た・ら・い！

聞こえてる？？おーい。」

「わあー！むじかさんとこいや…。

どしたん？？」

「いや、お前顔色悪いから…
大丈夫かな？って思つただけ。」

「え…？」

心配してくれてるん？

それだけで
もつと好きになりそうや。

「ありがとー！」

ぜんぜん平氣やで。

うちが顔色悪いわけないやん！」

「 わうやな…。

じやあ、わつものせ無しつひ」とドー。」

それだけ言つところは友達の方に走つていつた。

あーあ、行つちやつた。

もつと喋つとけば良かつたな…。

— その日の放課後 —

ロロロロロ

ん?

誰かな?

「 はい、もしもし。渡会ですけど…」

「 もしもし、槇原ですけど。

夕菜さんこますか?」

「 あ…うちやけど。

びつじたん?」

「 実は俺、わつき峰原に電話で告白してん。」

ズキン…。

胸が破裂するかと思つた。

いきなりそんなこと言われても。

「ううが苦しくなるだけやん……。

「そ……そつか。

〇「うひせりせりせり

「それが…

とむだいちどねるへつて言われた。

痛かった胸が
嘘みたいに痛むのが和らぐ……。

「ナウなんや。

まあ、次の恋がんばればこいせんー!」

「お……おおー

また、「おひしぐな。」

ることの余話はそれで終わってしまった。

なんだか
胸が痛いけど
痛くない…。
よく分からぬ。

つてゆづりよせ

「うむ、このひとを好きでずっとここにへ

るこ…。

「ひが皿ひだりくわるな？」

なぜおひでいいの？？（後書き）

いつも…愛夢 です。

視力低下の為パソコンがしばらくできませんでした（涙…）

そんなことは置いといて…

るいの告白を断つたりん！

るいのことをまだ好きでいいのか
分からぬ夕菜…。

複雑な恋…カナ??

次話も

よろしくお願いします

素直になりたい。

うちどるいの関係は？

友達がいちばん：なんかな。

そんなこんなを考えてる間に時間は過ぎて
気づくと昼休み。

りんりんば、ることのことを話してくれなかつた。
：いや、わざと話をなかつたんかな？

「もー！！イライラするし意味分からん#」

あ

無意識に大声出しちゃつた…

それに、いきなり教室で叫んだから
皆びっくりして視線は一気にうちに集中。

「夕菜！いきなりジーしたん？叫んだりして」

「うめんー。なんかいろいろあつて、（笑）」

「…あんな、いきなりで悪いねんけど。夕菜はぬこのことから思つ

?

「え？ なんで？」

自分では、とぼけたつもりでも心友には全部ばれてた。

その後もりんりんとの会話は続いて、家に帰つても、メールもして、電話もして・・・

お互いに、これまであつた事とか自身の気持ちも言つた。
まあ、つまり、るいの事すきってこと。
ついでにりんりんが、るいを振つたのはうちの気持ちに気付いてた
から。

「夕菜はるいの前とか肝心なところで、意地張つてゐるから
もつと素直になつたら？」

あたしは素直な夕菜が好きやでー！」

りんりんがこんなことをメールで送ってきた。

素直になる…か。

自分の気持ちに一番素直になりたい。

そんなん教えるかー！」

素直になる…か。

一次の田一

「渡来ー！ つはよ。」

「あ、 るー。 わはよーー！」

「なんで今日そんなトソンシ四郎高いんーー？」

「ん？まあ、色々あつてん」「

やつぱりこと驟ると変にトソンシ四郎上がるな。

そして、トソンシ四郎上がりつけなしのまま昼休みに…。

「なあ、 渡来って好きな奴おらんの？」

「はーー！ しきなり何？？」

つびくりしたー。

まさか、るいににそんな事聞かれるとは…

「おぬかど…。」

「えつーー！ なん？ 誰々？？」

「教えへーん」

「別に教えてくれてもいいやん。」

そんなん…聞いてる張本人が好きなんて言えるか…！」

「とりあえず今は無理！」

「うーん…ほんなら、もうすぐ期末テストあるし
そのテストで俺が勝つたら教えて…！」

「……うん、いいよ。」

今までうちが勝ってるんやし、いける。

そうして、この一人だけテスト2ヶ月前から勉強し始めたのだ…。

そんなん教えるか!!（後書き）

いつも…愛無 です。

なんか大変になっちゃいましたね（笑）
自分でもこの先が分からなくて困ります…オイオイ！

つてことで、とりあえず次の話も
よろしくお願いします

決戦のとき。

「とうとう、テストまで1週間になりました！
しっかり勉強して満足のいく点数を取ってくださいーーー。」

「「はあーい。」」

みんな一気にテンション下がっちゃったみたいやな。
まあ、うちはあるいに好きな人を教えへん為にも
2ヶ月前から勉強してたから
安全そのもの！！

「よつ！渡来ー1週間前やけど俺に好きな人を
教える覚悟は出来たんかな？」

「よう言つわ！残念やけどいがつちの
好きな人を知るには3年早いな 」

そんな話をしながら時は過ぎ…（笑）

決戦のとき、・・・。

いよいよテストが始まるぞーーーーーーーー。

現実逃避したい。

「……はい、そこまで。鉛筆置いて後ろから答案集めりー。」

「はあー、やつとテスト全部終わつた。」

「おつかれー！夕菜顔色悪いで。勉強しすぎぎー（笑）」

「えー、りんりんも勉強のし過ぎやでー
ただ今テストが終わりました

「渡来、峰原おつかれ！」

「おひ、るいおつかれー！」

バチツー！

やつぱつうちとるこの日が合いつ。

後から聞いたけど、

うちどるこの間に火花が散つてたといつ証言した人が20人ほどおつたらしい。

——次の日——

「今からテスト返していくぞー。」

どうか神様、アホるいに勝つてます様に…。

「…渡来今回はあんまり調子が良く無かつたんか?」

「え? ?」

恐ひ恐ひテストを見ると、 、 、 、

国語が72点! ? だいぶ落ちてる…。

「渡来――じついた? ?」

「はあー最悪。72点・・・」

「え?俺もやねんけど」

「…ほんじゃ、弓削分け? ?」

「むしきゅ悔しい――渡来には勝つたと思ったの。」

「他のテストで勝敗決まるな。」

――数日後――

結局、うちの平均点は80・5点だった。

「渡来は平均点こへり。」

「うちの平均点は――80・5点」

「俺はー… 81点… やつたー、渡来に勝つたー」

「嘘やない…?」

「ほんまやもんー 苦手な英語も克服したし」

るこがつかて向けて丶サインを出してへる。

やっぱー… るこに言わんな…。

でもるこー、うちの好きな人を教える=告白ー?.

今最高に現実逃避したいです。

学級閉鎖ならんかな… ??

現実逃避したい。（後書き）

お久しぶりです

夕菜がるいに負けてこのまま告白か！？

2人の運命は？（笑） 言いすぎました；

こんな感じですが次回もよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1545n/>

テスト勝負！

2010年11月2日13時53分発行